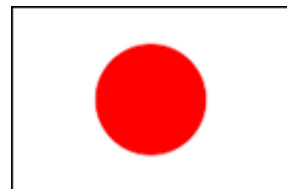


久喜市・ローズバーグ協会だより



発行 久喜市・ローズバーグ協会
発行日 2026年 5月 1日



ご挨拶

久喜市・ローズバーグ協会 会長 平澤 香

久喜市そしてローズバーグ市の皆さん、こんにちは。

2015(平成27)年に締結した久喜市との姉妹都市提携が、昨年10周年を迎えたことから、10月に梅田修一市長を含め22名で、ローズバーグ市を訪問しました。6日にはアンプクア・コミュニティ・カレッジで行われた記念パーティーに先だって、その素晴らしいロケーションの中で、両市民の手によってさらなる交流を深めたいと祈念して、植樹(ハーウィングローリーボリアー)を行いました。また協会からはパーティーの席上、交流の力強い発展の意味を込めて「武者絵のぼり」を贈呈いたしました。

今後とも市民の皆様には、交流のスローガンである「友情と理解」に、ご賛同いただくとともに、協会の活動にも、ぜひ参加していただきますようお願い申し上げます。



アンプクア・コミュニティ・カレッジでの植樹式



もうすっかり仲良し・鉄道博物館で

絆を未来へー姉妹都市提携 10 周年を記念して

久喜市長 梅田 修一

このたび、姉妹都市であるアメリカ・オレゴン州ローズバーグ市を訪問し、ローズバーグ市長のラリー・リッチ夫妻のご自宅にホームステイさせていただきました。ローズバーグ市全体をあげて、ホスピタリティ溢れるおもてなしをしていただき、感謝の念を深くいたしております。温かいおもてなしの中、市役所や消防署、警察署、中学校等を視察し、行政運営に対する理解を深めました。また、電力会社や設備工場も見学し、地域産業や市民の暮らしに触れる貴重な機会となりました。



姉妹都市提携 10 周年を祝う記念ディナーや記念植樹式も開催され、100 人もの参加者とこれまでの交流の成果を分かち合うことができました。

来年は久喜市の中学生がローズバーグ市を訪問し、ローズバーグ市からは成人訪問団をお迎えする予定です。これからもこの交流という宝を大切に育み、国際交流の輪がさらに広がることを期待しています。

ローズバーグ訪問を終えて

久喜市議会副議長 成田 ルミ子

今回のローズバーグ訪問は、日本からの成人交流団を追いかけての参加で、4泊6日という短期間でした。シアトルからユージーン経由で車で約1時間、北海道の美瑛に似た丘と川の美しい街です。ホームステイに不安もありましたが、迎えに来てくれたジャネットの笑顔で一瞬にして心が和みました。手作りのベジタリアン料理はどれも美味しく、心のこもったおもてなしに感動しました。これまで、受け入れ家庭の負担を心配していましたが、実際に滞在して「してあげたい」という気持ちこそ交流の原点だと感じました。同世代のジャネット夫妻と語り合い、心が通じる喜びを実感。久喜市にローズバーグという姉妹都市があり、成人・中学生交流が続くことは大きな財産です。今回の経験を生かし、今後も多くの市民が国際交流に参加できるよう働きかけていきたいと思います。



ローズバーグ市訪問友好親善

2025年 ローズバーグ市親善訪問（10.2～10.10）を終えて

訪問団長 平澤 香

訪問の最大のイベントは10月6日に行われたアンプクア・コミュニティ・カレッジの素晴らしいロケーションでの植樹式とまさにローズバーグ市をあけてというほどの盛大な姉妹都市提携10周年の記念式典でした。式典では公務のため欠席の轟木健ポートランド日本国総領事から寄せられた「両市の皆様が10年にわたり姉妹都市交流を続けてきたことに心より敬意を表します。皆様の熱意と尽力こそが素晴らしい成果の礎であると確信しております」と、両市の交流を高く評価するメッセージを頂きました。（中略）

梅田市長とラリー・リッチ市長とが今後も姉妹都市としての交流を図る旨の文書を交換されました。お祝いの引き出物として素敵なワインタンブラーが出席者に贈られました。

今回の訪問も感謝の一言に尽きます。これを糧に次の世代にもこの事業を継続・発展させていく事が久喜市・ローズバーグ協会の使命と考えます。今回22名の訪問団が大きな成果をあげたのも、ジャネット会長をはじめとしたローズバーグ姉妹都市協会の皆様のお陰です。重ねて感謝申し上げたいと思います。有り難うございました。



ローズバーグ姉妹都市協会
Roseburg Sister Cities, Inc.



久喜市・ローズバーグ協会
Kuki Roseburg Sister City Association



ローズバーク訪問・ホームステイを経験して
帰国後に訪問団の全員の方から報告書を頂きました。ここでは数人の方の感想を抜粋(編集子による省略・結合等の編集も含む)し、紹介させていただきます。

私たちのホームステイ

飯島栄治・清江

ホームステイは、私(栄治)にとって初めてであり、妻(清江)は3回目になります。受け入れ先のご夫婦は明るくユーモアがあり、私たちを心より歓迎してくれました。私たちはいつものように日常を過ごすことが出来ました。溪流での釣り、滝までのハイキング、先住民の人とホストと一緒にドラムを叩き神様を招く儀式への参加など体験させて頂きました。私もご夫妻の絵を描きプレゼントさせて頂きました。私たち夫婦は2回ほどホストファミリーとして活動に参加していましたが、久喜市の多くの皆様がこの活動に参加することを期待します。



毎日がスペシャルデイ

賀嶋孝浩・富子

何て美しく、広くて、時をゆったりと感じられるところなのでしょう！初めての参加で最初は少し不安でしたが、空港での心温まる出迎えに感激し、不安などどこかへ飛んで行ってしまいました。ホストのデイビットさんは日常を知りたいという私と釣り好きな主人のためにファーマーズマーケットでの買い物やオータムフェスタの散策、アンプクワ川でのボート釣りなど素晴らしいプランを考えてくれていました。メインイベントは日本の家庭料理の冷汁と肉じゃがを作ったことです。毎朝ダイニングテーブルの椅子に座ると窓からハミングバードが砂糖水を吸いに来るのが見えました。その様子を見ながらゆったりと流れる時間を共有できたのはホームステイならではのことだと思います。



憧れのローズバーク訪問

川島茂子

昔「オレゴンから愛」というテレビ番組を見て、大自然の多いオレゴンにいつか行ってみたいと憧れていました。広報にローズバークの訪問団募集とあり早速応募、参加させて頂きました。ホームステイ先のクライドさんのクラシックカーで広い敷地を走り回ったり、シャーリーさんの得意なキルトを教わり可愛い作品を作ったりしました。間近に見る野生の鹿やリス、お二人の家から見た日の出は忘れられない思い出です。



百聞は一見に如かず、とは？

島田伊代子・斉藤美帆

日本との違いを感じる日々を過ごしました。市役所では久喜市との交流の長さが感じられ、鯉のぼりや花嫁人形の展示があり、外に出れば母子馬や日本庭園が手入れをされており、心が和みました。今回の記念の武者絵のぼりも展示されると更に日本文化が伝えられます。警察や消防署、工場見学など皆様の心遣いに感謝です。初めての交流訪問に姪と一緒にいくことが出来ました。ホストファミリーの優しさ、異文化体験に感謝と感動の毎日でした。これからも多くの方に交流訪問をお勧め出来たら良いなと思いました。(島田)

ローズバーク訪問、叔母にお供出来たことを心から嬉しく思います。アメリカの広さ、人々の温かさ、文化の豊かさを改めて感じました。若い世代もこのような交流を通して視野を広げ、違いを尊重しながら学んでいく大切さを伝えていきたいです。(斉藤)



温かい友情と強い絆に感謝です

杉山菊雄

コンベイ工場見学では大きな精密な機械を設計からの制作作業を見せて頂き驚きと感動でした。従業員の接客対応も良く楽しみながら見学でき、沢山のプレゼントを戴きました。訪問先の中学校や新ダグラス・エレクトリック社等数々の施設の責任者が数十年前に中学生で親善交流で菖蒲に来ていた人たちと知り驚きました。ホームステイ先のキース、ジョアン、ロンジーさんには優しく接頂き楽しい時間を過ごしました。ジョアンさんのお母さんのヘレン・パイルさん(97歳)には、洗濯物を洗って頂いたり、トランプやダンスを一緒に頂き感謝です。若さと長生きの秘訣は行動することだと教えられました。



素晴らしい経験（中学生の親善交流事業より）

久喜市中学生国際親善交流実行委員会 副委員長 （久喜北小学校 校長）

麦倉芳信

今回の事業で最も心に残っているのは、両市の子供たち、そして携わった全ての皆様の「笑顔」です。どの場所を訪れても終始笑顔があふれ、誰もが本当に嬉しそうにしている姿を目の当たりにし、この事業がいかに素晴らしいものであるかを再認識いたしました。私自身も、来日されたエリック先生をホストファミリーとしてお迎えしました。言葉や習慣の違いを越えて共に過ごした時間は、私や家族に、新鮮でしなやかな視点をもたらしてくれたと感じています。

今年は、初代駐日総領事タウンゼント・ハリスが来日してから 170 年の節目にあたりと聞いています。幕末に日米修好に尽力したハリスと当時の日本。時を超えて、今こうして久喜市とローズバーグ市が温かい交流を続けていることに、深い感慨を覚えます。事業を支えてくださった皆様に心よりの感謝を申し上げるとともに、この素晴らしい取り組みが、これからも末永く継続することを願っています。



交流事業に参加して 【生徒とその保護者の方から感想をお寄せ頂きました。】

久喜東中学校

1 年 橋本千鶴

「言葉が通じなかったらどうしよう」という不安から始まった、ローズバーグ市のゲストとの一週間。しかし、終わってみれば最高に楽しい夏の思い出になりました。長瀬での B B Q や久喜市のお祭りに行き、家ではたこ焼きと一緒に作りました。英語がすぐに出てこない時は、スマホの翻訳機能を使ったり写真を見せたりして、必死に自分の思いを伝えました。そうして工夫しながら向き合うと、相手を理解したいという気持ちが伝わり、会話が弾む喜びを知りました。この経験から、一番大切なのは語学力以上に「歩み寄り心」だと学びました。これからもこの経験を大事に、世界中の人と繋がってみたいです。



保護者 橋本麻裕美

この夏のホストファミリー体験は、我が家にとって家族全員での大きな挑戦でした。久喜市の伝統あるお祭りでは日本の情緒を共に味わい、食卓では本場アメリカのブリトー作りを教わる。そんな日々の中で実感したのは、言葉の壁を越える心の通い合いです。完璧な語学力はなくとも、互いの文化を尊重し、共に笑いながら手を動かす時間を通じて、絆が深まっていくのを感じました。この交流が教えてくれたのは、コミュニケーションの本質とは「相手を理解しようと歩み寄り姿勢」そのものだということです。このかけがえのない学びを、今後の糧にしていきたいと思います。

太東中学校

2 年 山田結心

僕は、クーパーと過ごした 1 週間でたくさんの思い出を作る事が出来ました。クーパーと僕はゲーム好き、楽器好きなど共通点があります。ゲームを一緒にする時は言葉を忘れて盛り上がり、ゲームミュージックを教えてもらいながら一緒にピアノを弾きました。ホームステイを通じて、共通の趣味や話題があれば言葉は必要ない！！と思った反面、相手に自分の気持ちを届けられたらもっとコミュニティが広がると感じました。クーパーとはホームステイ後も連絡を取り合っています。今回の出会いに感謝し、これからの自分の成長に繋げていきます。



保護者 山田香代

ホームステイを受け入れる事になり、1 週間楽しんでもらえるか、意思疎通は出来るか、食事は口に合うのかな等、心配ばかりでした。実際にクーパーに会うと、日本の文化や建築物に興味を持っていて、共通の話題でコミュニケーションを取ることができました。日本人と違い、察するというより、自分のしたいこと、したくないことをはっきりと意思表示する文化の違いを学ぶことができました。自分自身の英語力は皆無でしたが、子供のコミュニケーション力や、翻訳アプリに助けられて、楽しい時間を過ごすことができました。

編集後記

姉妹都市提携 10 周年を記念した 2025 年のローズバーグ訪問が出来ました。嬉しいことに新しい参加者が増え、「友情と理解」の輪がさらに広がり、深まっております。また、昨年 12 月の「広報くき」にも交流の様子が掲載されておりますので併せてご覧ください。なお、今年度の訪問団交流は受入（10 月 21 日～29 日予定）の年となります。皆様の参加をお待ちしています。

（原稿は 2026 年 3 月 31 日現在の役職・内容で記載）

編集責任者 山田銀子 今村暢子 鈴木一美 岡崎幸嗣